

1年生学年だより



豊中市立第五中学校 2021年11月11日(木) No.31

道徳の授業

11月9日(火) 1限

教科と並行して、『道徳』の授業もあります。毎日の学校生活が、忙しくても、生徒のみなさんも落ち着いて考えること、心と立ち止まって自分の発言や行動を見直すことを大切にしてください。道徳では、自分の考えを深める授業をしています。

◆ 違いを乗り越えて <多文化共生>

2021年夏に東京オリンピック、東京パラリンピックがあったこと、海外のチームで活躍するスポーツ選手のニュースや海外アーティストなど、中学生ともなると興味の幅が広がり、海外の話題も、豊富になる年齢です。

近年のネットやSNSの普及で、良くも悪くも中学生でも直接多量の情報を知ることができます。ネット、SNSでの交流は、国境を越え、さまざまな情報とともに、多様な地域の人々ともなかなかなる便利な道具です。さらに、大阪にも外国にルーツをもつ人たちがたくさん住んでいます。

今や、海外に行かなくても、外国にルーツをもつ人たちと一般に出会うことができる時代に、さて、私たちは、どのように接し、何を大切にしていけばよいのか、みんな考えてみました。

主人公「私」の家にインドネシア人のAさんがホームステイでやって来ました。日本とインドネシアには生活習慣やマナーなどの違いがあるため、ホームステイ中、二人は迷いながらも互いに異文化を学びます。Aさんと母が交流している姿、そしてそれを見た「私」は、違いは違いとして尊重する大切さ、また友好的な関係を築きたいという願いは、同じ人間として共通していることに気づくという教材です。この多様な文化の存在に気づけるよう各クラスで『無意識による差別』について学習しました。SDGsで学習した共生社会の実現のために多様性も理解しよう。

<他の国の人と接するとき、どんなことを大切にしていこうか？> 生徒の感想より

- 自分や自分の国の文化や習慣をおしつけない。相手の嫌がることをしない。
- 相手の気持ちを理解して接すると思う。
- 日本の文化も外国の文化も地域によってちがうから、わかってあげることが大切だと思う。

○ 自分が、これは大丈夫と思って話しても、外国の人を知らない間にきずつけている言葉があるとわかったし、そうならない話ができる人になりたい。

○ 相手の文化を理解する。 ○ 相手の考えを尊重する。

○ 相手のことをもっと知っていくことを大切にする。

<学習して思ったこと>

○ みんな同じ人間だから、平等に。

○ 自分がいいと思ってやっていることも時には、外国の人たちをきずつけていることがあると思った。

○ 日本と文化がまったく違うところもあることを知って、外国の文化を体験してみたいと思った。

○ 意外と他の国の人にやってしまいそうなことばかりあった。

○ 優しく言えばいいのかなと思った。

○ 他の国の人とのお話がこんなに難しいことだと知った。

○ 自分が言われたら、いやだと思うか考えて言うようにしたい。

○ 国の文化は、いろいろあるから他の国の文化をもっと知りたいと思った。

○ 相手のことを考えて会話をするのは難しいけど、大切だなと感じた。

○ 外国によって、大切にしている文化が違うことがわかった。

70期生のみんなの感想に多くでてきた言葉で、

『相手のことを考えて話す』 『相手のことをもっと知っていく』

『相手の嫌がることをしない』 『相手の考えを尊重する』

・・・などがありました。この行動は、特別な人にだけ、外国の人にだけ、することなのでしょうか？

もっと、身近な人たちや身近ななかに70期生の本当の優しさや真心を見せてください。

